

2018 (平成30) 年度 通常総会 議案書

2018年 7月 21日 (土)

東京大学農学部弥生講堂セイホクギャラリー講義室

特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

1. 事業活動概要

監査実務研究会とEPE研究会が、協会活動の柱の一つであり活発な研究活動で成果を挙げた。

加えて、JEMASは中小企業に対する環境経営、EMS支援が主要なテーマの一つであり、2017年度総会併設講演会及び地域(東京・世田谷工業振興協会)に協力してのセミナーの実施に加えて定例の春・秋のセミナーを行った。ここでは会員に講師を依頼しての講演に加えて外部から講師を招いた講演会を企画、一般の参加者も交えて活発な意見交換を行った。

この他、12月に開催のエコプロ展ではNPOブースに出展し、活動のPRを行った。

活動については、常に新しい研究テーマの発掘と、JEMASニュース、ホームページの継続的なりニューアルが重要であり、この点に配慮して活動している。

また、JEMASは、元々は環境マネジメントシステム構築及び管理者と審査人のための協会であり、審査員補・審査員・主任審査員として登録した方がさらにレベルアップすることを支援する組織でもある。上記はCEARのCPD時間申請に有効なセミナーでもある。それによって新規入会者募集の寄与に貢献している。

2. 事業報告

[1] 環境マネジメントに関する調査研究事業(定款第5条第1号に係わる事業、以下関連号のみ記す)

(1) 環境監査実務研究事業

- 1) 内容 監査実務研究会(略称:実務研)・EMS支援方法及びコンサルティング技法の研究の検討会
「監査実務研究会」の2017年度(2017年6月~2018年5月)は、2015年9月15日に改訂された「ISO14001」の規格の要求事項について原文を参照しながら、重要なポイントについて個別に検討し、特に規格の意図、規格のねらいをISO9001等の他規格と比較し、相違点や共通点を明確にしながらその求めるものを正確に理解する。要求事項の具現化に際しては経営に貢献するEMSとは何か、関連する他のMSとの統合や連携を加味する。併せて審査員の立場から審査での留意すべきことを検討する。加えて、具体的な事例を取り上げて、より良いEMS構築に資する点を明確にする。以上を目的にして前年度に引き続き検討・考察を続けた。
これらの研究成果は都度セミナー等で報告している。

- 2) 日時 定例研究会はほぼ毎月1回
3) 場所 調査研究活動は主として東京中野「AUDIX Registrars 会議室」で行った。
4) 従事者 研究会会員 20名; 研究会参加者延べ90名
5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々
6) 支出額 収支計算書参照

(2) 環境パフォーマンス評価研究事業

- 1) 内容 : 環境パフォーマンス研究会(略称:EPE研)
研究会は当初の環境パフォーマンス評価研究の原点へ戻り、2015年規格改訂を踏まえ、各種具体的資料入手のもと、経営効率及びCSR、ESGの視点を加えての有用な環境パフォーマンス評価の方法及び評価指標の研究に加えて定量的な評価と情報発信のあり方について研究を行った。特に、現在広く導入が進みつつあるSDGsがEPEに与えるインパクトの考察も実施した。
これらの研究成果は都度セミナー等で報告している。
- 2) 日時 定例研究会は、原則 毎月1回
3) 場所 主としてKAZコンサルティングの会議室を利用して実施した。
4) 従事者 研究会会員 10名; 研究会参加者延べ80名
5) 受益者 エネルギー管理、環境パフォーマンス評価や関連する研究に関心を持つ多くの人々
6) 支出額 収支計算書参照

(3) エコアクション21研究事業

現在活動は、休止中であるが新しいリーダーと確立された目的があれば再出発する予定である。

[2] 環境マネジメントに関する情報提供事業 (第2号に係わる事業)

(1) 電子媒体による双方向情報発信事業

メーリングリストの活用によるタイムリーな情報発信 (新聞情報, JEMASニュース等) と研究事業ごとの登録制情報 (メーリングリスト) による情報交換を進めた。

2017年度(2017年6月~2018年5月)もHPやメーリングリストにより、各研究会に関する情報交換、各種イベントの周知広報や資料の共有を行っている。

- 1) 内容 ・メーリングリストとホームページによる、主要新聞に掲載の環境マネジメント関連情報の発信
・メーリングリストの活用によるタイムリーな会告形式での情報発信

2) 日時 通年

3) 場所 情報端末上, 電子媒体

4) 従事者 担当の理事, 運営委員 4名

5) 受益者 環境マネジメントに関心を持つ多くの人々

6) 支出額 収支計算書参照

(2) 会誌出版事業

特記事項なし。

[3] 環境マネジメントに関する講演会, 研修会等の企画・運営事業 (第3号に係わる事業)

会員及び一般の方々への環境マネジメントの普及・啓発のため総会開催時と秋1回、春2回の計4回、講演会を開催した。加えて 世田谷工業振興協会に協力してセミナーを開催した。いずれも盛況であった。

(1) 総会併設 特別講演会

1) 内容: プログラム

テーマ1: 実務研究成果報告 JEMAS 実務研究成果報告 (ISO14001の改訂への対応他)

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

テーマ2: EPE研究成果報告 (EPEの検討方針と今後)

JEMAS 理事 富士通エフ・アイ・ピー (株) 主席コンサルタント

伊藤泰志

特別講演: 最新の環境法規制動向と企業の環境経営

JEMAS 顧問 鈴木敏央 ISO事務所代表

鈴木敏央

2) 日時 2017年7月22日(土)

3) 場所 東京大学本郷キャンパス 弥生講堂アネックス・一条ホール・セ休館ギャラー

4) 従事者 8名

5) 参加者 50名 (環境マネジメントに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(2) 2017年 JEMAS 10月セミナー

1) プログラム: ISO14001/2015年改訂の進捗状況確認と次なる環境経営の課題を考えよう

講演1 「食品会社のCSR経営: 食の安全・安心確保と食品ロス防止の取組み」

味の素食品株式会社グローバルコミュニケーション部CSRグループ長

長谷川泰伸

講演2 「ISO14001・2015年改訂に求められるその本質と具体的な企業の対応」

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

2) 日 時 2017年10月28日 (土)

3) 場 所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂アネックス・一条ホール・講義室

4) 従事者 6名

5) 参加者 25名 (環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(3) 2018年 JEMAS 2月セミナー

1) プログラム: パリ協定の具現化、環境・品質のISO改訂に対応するに必要な力量とは

講演1 「環境MSを取り巻く最新の流れとISO新規格のポイント」

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

講演2 「地球温暖化対策、SDGsを念頭において企業に求められるその本質的な対応」

国連大学名誉副学長/東京大学名誉教授、
一般財団法人持続性推進機構理事長

安井至

講演3 「EA21審査の現場からの報告」

JEMAS 会員

芦ヶ原治之

講演4 「CSRやSDGsを念頭に置いた環境パフォーマンス評価と統合報告」

JEMAS 理事 富士通エフ・アイ・ピー (株) 主席コンサルタント

伊藤泰志

2) 日時 2018年2月17日(土)

3) 場所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂アネックス・一条ホール・講義室

4) 従事者 6名

5) 参加者 25名(環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(4) 2018年 JEMAS 5月セミナー

1) プログラム: これからのビルディング(建物やオフィス)は如何にあるべきか。

講演1 「オフィスビルやオフィス環境を取り巻く最新の流れとあるべき姿」

JEMAS 理事長 東工大非常勤講師

小山富士雄

講演2 「地球温暖化抑制と建築・設備、そして・・・」

日比谷総合設備株式会社 技術研究所長

泉山浩郎

講演3 「SDGsとCSV、職場変化を先取りした新しいオフィス環境とは」

株式会社イトーキ CSR部長

岩井伸一

2) 日時 2018年5月12日(土)

3) 場所 東京大学農学部キャンパス 弥生講堂アネックス・一条ホール・講義室

4) 従事者 6名

5) 参加者 25名(環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

(5) 世田谷工業振興協会主催 環境経営と企業力改善セミナーに協力

1) 内容 講演1 「AI(人工知能)によってもものづくりはどう変わるのか」

JEMAS 会員

佐藤 貢

2) 日時 : 2017年10月4日(水) 18:30から20:00

3) 場所 : 世田谷産業プラザ3階 小会議室

4) 従事者 4名

5) 参加者 15名(環境経営及び環境マネジメントシステムに関心を持つ人—不特定多数)

6) 支出額 収支計算書参照

[4] その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 広報委員会報告

2017年度は、広報委員会と名称変更して、JEMASのHPの更新と運用に目的を絞って活動した。中山理事を広報委員長とし友野理事、ウェブマスター(会員:荒谷輝正さん)他、数人の協力を得て完成したHPによる運用を行っている。

(2) エコプロ展への出展

毎年12月に東京ビッグサイトで開催されているエコプロ展は国内最大の環境活動に関する展示会であり、JEMASも過去に出展した実績を有する。今回、JEMASがコア出展者となり2コマのブースを使用して、エコステージ、コンパクトエコ、リスクセンス等の当協会会員が中核となっている活動事例の紹介も交えて出展した。JEMASのブースには多数の方の訪問があり、所定の成果が得られた。

なお、出展費用は参加された協力団体の負担で対応した。

出展準備は12月6日、展示会は12月7、8、9の三日間、撤収は12月9日の夕方。

(3) 人材育成支援活動(人材教育委員会)——「JEMAS人材育成プログラム」として実施を計画した。

具体的な活動は、一次中断されているが、今後、JEMASの発展には、重要であり、再開を検討している。

(4) プロジェクト活動の研究・検討

現在、下記プロジェクトについて検討中である。

- 1) プロジェクト.1 間伐材の活用による創エネルギーの提案
- 2) プロジェクト.2 中小企業の省エネルギー推進の提案 (省エネ診断の其の先)

以上

貸借対照表

2018年5月31日現在

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

(単位;円)

科目	金額		科目	金額	
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金	28,959		前受年会費	8,000	
預金	207,408		預り金	0	
未収入金	40,000		未払費用	34,380	
流動資産合計		276,367	流動負債合計		42,380
			固定負債合計		0
2 固定資産			III 正味財産の部		
機械及び装置	20,798		前期繰越正味財産額	338,767	
固定資産合計		20,798	当期正味財産増加額	-83,982	
資産合計		297,165	正味財産合計		254,785
			負債及び正味財産合計		297,165

以上のとおり報告いたします。

2018年7月17日

特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

理事長 小山 富士雄 ㊟

上記は適正なることを認めます。

会費未収分については担当理事が鋭意回収していることを理事会で確認しました

また業務についても、記録文書、理事および他の会員等に対しての口頭質問、理事会での議論聴取、等々から適切にすすめられてきたことを認めます。

監事 岩田 浩一 ㊟

監事 岸川 浩一郎 ㊟

法人の名称 特定非営利活動法人 日本環境管理監査人協会

1. 事業活動方針

前年度の事業活動の成果に基づき一層の事業の積極的展開を図るため、今年度も電子媒体の活用を含む一般広報による新規会員の増強、会員間の連携の緊密化、研究情報の発信提言などにより事業の質の強化・向上を図る。加えて、HPの一層の活用やメーリングリストの活用による関連機関・中小企業・NPO等との交流や連携を深めて行きたい。

今年度の活動の4本柱は、①研究会活動(実務研、EPE研)、②総会併設講演会及び各種講演会、③人材育成活動、④中小企業支援活動である。この他、プロジェクトの発掘と推進及び新規研究会の創設を計画したい。

研究会活動も単に研究のための研究(勉強の域を出ない)から一步前進すべきタイミングにきている。例えば、省エネの推進指導と関連する事業の発案、さらにはこれを材料として他の組織と連携しての活動も一つの選択肢である。また、ISO14001の改訂を機に幅広い視点でMSを捉え、活動の幅を広げると共に、真に経営改善に貢献できるMSとは何かを追求することも必要である。

さらに東日本大震災の復興・復旧、さらには最近の各地での自然災害発生に関連して中小企業対象に節電・省エネの具体的な実行計画提案、再生可能エネルギー利用推進、リスク対応のみならず、サプライチェーンを視点に入れたBCP・BCMの構築等の新たな視点での中小企業の環境経営に資する手法を開発およびその啓発の具体的な計画立案も重要な研究テーマである。

これらの活動の形あるものにするためには他機関との連携も視野に入れることも考慮する。

2. 事業内容

[1] 環境マネジメントに関する調査研究事業(定款第5条第1号に係わる事業以下関連号のみ記す)

(1) 環境監査実務研究事業

2018年度は2015年9月15日付けで改訂されたISO14001の内容及び関連する規格との関係を検討し、それを踏まえての監査(審査)の留意点、および具体的な課題の解決についての研究実施を予定している。

1) 内容 監査実務研究会(略称:実務研)

ISO14001改訂版の内容及び監査(審査)の留意点について研究を進める。

2) 日時 定例研究会はほぼ毎月1回

成果発表会(中間発表)の日程は未定

3) 場所 調査研究活動は主として東京中野「AUDIX Registrars 会議室」

成果発表会は主として東京大学の会議室を予定

4) 従事者 延べ90名

5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々(不特定多数;会議室の規模で制約)

・成果発表会は40人規模(会場の最大収容人員)、ウェブサイトは不特定多数

6) 支出見込額 2018年度予算書参照

(2) 環境パフォーマンス評価研究事業

ISO14001の2015年改正版を視野に入れ、環境マネジメントシステムにおける環境パフォーマンス評価指標について具体的な研究を進める。加えて、SDGsやESGを加味した環境指標と統合報告のあり方についても検討を進める。

環境マネジメントはあらゆる業種でいろいろな形で展開されているが、その成果を評価する指標は多様である。組織にとってその活動成果のとらえ方も多様で、環境マネジメントシステムの進化をとらえる指標には各組織とも苦慮していることがうかがえる。その状況に鑑み、対象業種を絞って具体的な環境パフォーマンス評価指標を提供すべく研究を進め、特に中小企業を対象とした有用な環境パフォーマンス評価手法及び評価指標の研究を推進する。

1) 内容 環境パフォーマンス評価研究会(略称:EPE研)

以下の観点を考慮しながら、中小企業における環境マネジメントの推移及び進化をとらえる環境パフォ

パフォーマンス評価手法及び評価指標の研究を進める。

- ① ISO14001:2015が求める環境パフォーマンス評価
- ② 製造業、サービス業を対象とした具体的で使いやすい環境パフォーマンス評価指標
- ③SDGs、ESGを配慮した統合指標

- 2) 日時 原則として毎月1回、定例研究会開催
成果発表会（日時は未定）の開催。
- 3) 場所 調査研究活動は主として東京新宿の「KAZコンサルティング」会議室
成果発表会は主として東京大学の会議室を予定
- 4) 従事者 延べ80人
- 5) 受益者 環境パフォーマンス評価とその監査に関心を持つ多数の人々（主として中小企業を対象）
成果発表会は40人規模（会場の最大収容人員）、ウェブサイトは不特定多数
- 6) 支出見込額 2018年予算書参照

(3) エコアクション21研究事業

新しいリーダーと方針が明確になりメンバーがそろった時点で再開する。

[2] 環境マネジメントに関する情報提供事業（第2号に係わる事業）

(1) 電子媒体による情報通信事業

引き続きウェブサイトの充実を図るが会員の協力による情報収集のシステム化、各事業参加者による広報活動協力（投稿等）を積極的に推進する。

- 1) 内容
 - ・主要新聞・雑誌情報の原典所在情報の収集と電子媒体（ウェブサイト等）上での発信
 - ・環境マネジメントに関する調査研究情報のウェブサイト上での発信
 - ・ウェブサイトによる環境問題等の総合的な情報提供
 - ・理事会、研究会等の活動の広報や会員情報、投稿を中心としたJEMASニュースの発信
 - ・参加型、双方向のメーリングリスト活用
- 2) 日時 通年
- 3) 場所 発信場所は首都圏「運営委員、担当理事の自宅」、
電子媒体（当協会ウェブサイト、メーリングリスト）
- 4) 従事者 3人
- 5) 受益者 環境マネジメントに関心を持つ人々（不特定多数）
- 6) 支出見込額 2018年度予算案参照

[3] 人材育成に係る事業の企画・運営（第3号に係わる事業）

(1) 環境マネジメントに関する講演会及び研修会等の企画・運営

企画に当たっての基本的な考え方は下記のとおりである。

時流に沿ったテーマを選定し世の中の潮流を先取りするように常に配慮する。環境管理監査に関する事例及び広義の環境に関する法規制動向などを中心となるが、これに必ずしも拘らない。但し、形式は講演会を中心として参加者の意見交換が容易な形式とする。

① 総会に併設した講演会；

1) プログラム

テーマ1：JEMAS 実務研成果報告（ISO14001の改訂への対応他）

JEMAS 理事 AUDIX Registrars 社長

齋藤喜孝

テーマ2：JEMAS EPE研成果報告（EPEの評価基準の検討と今後）

JEMAS 理事 富士通FIP（株）環境経営主席コンサルタント

伊藤泰志

特別講演：「工場と地域の対話が実現する持続可能な開発目標（SDGs）」

独立行政法人製品評価技術基盤機構・化学物質管理センター・調査官

横浜国立大学環境情報研究院客員准教授

竹田宣人

2) 日 時：2018年7月21日（土） 14：30～17：00

3) 場 所：東京大学本郷農学部 弥生講堂アネックス・講義室

- 4) 従事者： 4人
- 5) 受益者： 環境経営・環境マネジメントや企業の経営革新に関心を持つ人々（不特定多数）
- 6) 支出見込額： 2018年度予算案参照

② 秋の定例シンポジウムその1

- 1) 内 容： リスクとリスクマネジメント、環境・品質・安全等のMSの基本的な考え方を対象に検討中
- 2) 日 時： 2018年9月15日（土）午後
- 3) 場 所： 東京 本郷 東京大学農学部弥生講堂アネックス 講義室
- 4) 従事者： 4人
- 5) 参加者： 30人
- 6) 支出見込額 2018年度予算案参照

③ 秋の定例シンポジウムその2

- 1) 内 容： SDGs及びパリ協定具現化をテーマに検討中
- 2) 日 時： 2018年10月13日（土）
- 3) 場 所： 東京 本郷 東京大学農学部弥生講堂アネックス 講義室
- 4) 従事者： 4人
- 5) 参加者： 30人
- 6) 支出見込額 2018年度予算案参照

④ 春の定例シンポジウムその1

- 1) 内 容： 研究会報告（詳細未定）
- 2) 日 時： 2019年2月16日（土）
- 3) 場 所： 東京 本郷 東京大学農学部キャンパス 会議室
- 4) 従事者： 4人
- 5) 参加者： 30人
- 6) 支出見込額 2018年度予算案参照

⑤ 春の定例シンポジウムその2

- 1) 内 容： 研究会報告（詳細未定）
- 2) 日 時： 2019年5月
- 3) 場 所： 東京 本郷 東京大学農学部キャンパス 会議室
- 4) 従事者： 4人
- 5) 参加者： 30人
- 6) 支出見込額 2018年度予算案参照

(2) 人材育成に係るセミナー及び研修の企画・運営

セミナー及び研修の講師は原則としてその企画・運営の一端を担うこととする。お願いして頂くものではなく、その経験がキャリアとして蓄積される形態とする。（セミナーと研修は区別する）

研修は、シラバス（研修計画）を作り、2ヶ月に1回程度実施を検討する。

人材育成委員会は会場の手配の協力、その他のアドバイスを行う。講師への謝礼は実費（交通費程度）とする。人数の多少には余り拘らない。（会場は主として東京大学の会議室、東京周辺の会議室を予定）

テーマは最近の話題を中心にJEMAS独自のものも含めて検討する。

- 1) 内容 上記の趣旨にのっとったもの。
- 2) 日時 定例研究会は、ほぼ2ヶ月に1回

成果発表会（中間発表）の日程は、未定

- 3) 場所 成果発表会は主として東京大学の本郷の会議室を予定
- 4) 従事者 延べ15名
- 5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々（不特定多数；会議室の規模で制約）
・成果発表会は20人規模、ウェブサイトは不特定多数
- 6) 支出見込額 2018年度予算書参照

(3) 中小企業支援活動

東京世田谷区世田谷産業プラザで、中小企業を対象とした環境経営等、当面の課題解決に資するセミナーを世田谷区工業振興協会と共催で行なう。

講演内容は、今後先方と協議の予定であるが、今秋から来春にかけて1から2回開催を予定している。

- 1) 内容 環境経営、省エネ、ISO14001改訂、中小企業の経営合理化等
- 2) 日時 先方と協議の上、とり進める。
- 3) 場所 東京都 世田谷区世田谷産業プラザ 田園都市線三軒茶屋駅前
- 4) 従事者 延べ15名
- 5) 受益者 環境マネジメントに携わる多数の人々（不特定多数；会議室の規模で制約）
・成果発表会は50人規模（会場の最大収容人員）
- 6) 支出見込額 2018年度予算書参照

この他、関東経済産業局、大田区や神奈川県下の各市（川崎、相模原等）の省エネや環境経営推進活動に協力して、各種研究に参画やセミナーへの講師派遣等の協力要請に積極的に対応する。

上記のセミナーに加え、川崎市での開催や東京都内各地での開催も検討する。

中小企業を対象とし、工業団地組織や商店街、関係行政機関へのPR活動など集客方法が今後の課題である。

(4) 他機関との連携による活動の推進「2017年度事業報告書（第1号議案参照）」

2013年度から研究を開始した2件のプロジェクトについても関係自治体や関係機関と協議・検討を進める。

プロジェクト. 1 間伐材の活用による創エネルギーの提案

プロジェクト. 2 中小企業の省エネルギー推進の提案「省エネ診断の其の先」

(5) 新規研究会の立ち上げのための検討及び準備作業実施

仮称：「エネルギーマネジメントと省エネ」をテーマとした研究会の立ち上げの検討に入り、必要な諸準備に着手する。内容が固まり次第、研究会を発足することとしたい。

新規研究会の発掘と研究の推進には、ワークショップとskypeを活用する。

(6) エコプロ展への出展

昨年に引き続き、エコプロ展に出展し、JEMASの知名度向上と会員が取り組んでいる活動事例を紹介する。出展費用は参加協力団体に分担をお願いする予定である。

以上